

標 題 : Dietary Fat, Olive Oil and Breast Cancer Risk
食事脂肪、オリーブ油と乳癌リスク

著 者 : J. M. M.-Moreno, et al. (スペイン 国立健康大学 疫学生物統計学科)

掲 載 誌 : Int. J. Cancer 58: 774-780 (1994)

要 旨 : スペインの住民に基づいた食事と乳癌に関する症例-対照研究の一部として、乳癌の原因における食事脂肪および植物油の役割を調べた。

新たに乳癌と診断され組織学的に確認された18~75歳の女性762人、およびランダムに選んだ女性の対照988人が、認証済の半定量食事頻度アンケートを完了した。

各食品および栄養素につき、摂取値に従って被験者を4区に分け、最低区分を対照分類とした。女性全体および閉経前と閉経後の女性について、多重ロジスティック回帰を用いて総エネルギー摂取量および他の交絡因子の調整をした。

閉経前と閉経後の女性で、総脂肪摂取量も特定の種類の脂肪も、乳癌と有意な関連をしなかった。

しかしオリーブ油(1価不飽和脂肪が多い)の高い摂取量は乳癌の低いリスクと有意に関連し[摂取の最高区分 対 最低区分(4区分)のオッズ比(OR)=0.66、95%CI 0.46~0.97]、有意な量依存性の動向があった。

これらの知見は総脂肪摂取量と乳癌リスクとの間の関連を裏付けないけれども、オリーブ油と乳癌リスクとの間の逆関連の証拠を提示する(1価不飽和脂肪との間の逆関連を示唆する)。
